

セイタカシギ 英: Black-winged Stilt 学: *Himantopus himantopus*

1. 分類と形態

分類: チドリ目 セイタカシギ科

全長: 350-400mm 露出嘴峰長: 56-69mm

自然翼長: 206-255mm

ふしよ長: ♂101-137mm ♀ 100-135mm

体重: 112-223g

※計測値は, Pierce et al. 2020, Hayman et al. 1986による

羽色:

非常に長く赤い脚と、細く長い嘴が特徴。成鳥は顔、胸部、腹部が白色。飛翔時に背中に白色のスリットが入る。雌雄ほぼ同色だが、オスの繁殖羽は頭部付近から後頸まで様々なパターンの黒色模様があり、背面は緑暗色で光沢がある(写真1)。メスの頭部と後頸部には薄墨色模様があり、背面は緑褐色で光沢がない(写真2)。非繁殖羽はメスに似るが足の色はくすみピンク色になる。虹彩は赤色。幼鳥の背面は褐色味があり、バフ色の羽縁がうろこ状にある(写真5)。



写真1 セイタカシギ(オス)



写真2 セイタカシギ(メス)

鳴き声:

短く強く、「ケッケッケツ」と鳴く。興奮すると、より速く高い音の「キキキキキ」と鳴き、より警戒すると「ピュー」と鳴く。

2. 分布と生息環境

分布:

汎世界的に分布し、アフリカ大陸中南部、ユーラシア大陸南部、インド、東南アジア、オーストラリア大陸、北アメリカ大陸南部、南アメリカ大陸にかけて不連続に繁殖分布する(中村・中村1995)。オーストラリアに分布する亜種オーストラリアセイタカシギ(*H. h. leucocephalus*)は、独立種として扱われることもある。

日本では全国的に観察される旅鳥だったが、1975年に初めて愛知県で繁殖が確認され(中村・中村 1995)、その後、千葉県、東京都、愛知県、三重県、大阪府、兵庫県、鹿児島県、沖縄県など局地的に繁殖記録があり(三木・守屋 2022)、一部で留鳥化している。

生息環境:

熱帯から温帯にかけての湿原や湖沼、河川、水田、ハス田など主に淡水域に生息するが、塩田や塩性湿地、アルカリ性の湖沼にも生息する(Pierce et al. 2020)。国内では、湖沼、水田、ハス田、干潟、調整池などに生息する。

3. 生活史

繁殖システム:

日本国内では繁殖期は5~7月、一夫一婦制で繁殖する。ディスプレイ飛行で縄張りを誇示する。著者の観察では、縄

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 月

越冬期

繁殖期 巣外育雛期 渡り

張りに侵入するケリやバンなどに追い出し行動を行い、人に対しては擬傷行動と思われる行動も観察された(写真3)。単独で繁殖することもあるが、海外では、2~50組のルーズコロニーで繁殖し、他のシギ・チドリ類と一緒に営巣することが多いと報告されている(Pierce et al. 2020)。

Photo by 三木敏史



写真3 農作業者に対し擬傷と思われる行動を行うセイタカシギ

巣:

直径30~33cm、深さ5cm程度で、水際の草地の中に作り、小石、貝殻片、植物質などを内部に敷く。ハス田、調整池内の小島状の場所に好んで営巣する。

Photo by 三木敏史



写真4 ハス田に営巣するセイタカシギ

卵:

一腹卵数は、通常4個(3~6個、ときに7個)、クリーム色に茶色、黒、灰色の斑点模様。大きさは長径33~50mm×短径22~39mm、重さは22~29g(Pierce et al. 2020)。

抱卵・育雛期間:

抱卵期間は22~25日間、雌雄ともに抱卵するがメスが抱卵することが多い。ヒナは早成性で孵化した当日か翌日には巣を出る(写真5)。育雛の期間は28~32日(Reed et al. 1999)、雌雄で行うが、メスがいないくなりオスのみで育雛することがある(Kitagawa 1988)。



写真5 セイタカシギ(幼鳥)

繁殖成功率:

巣立ちの成功率はスペインで50%程度と報告されている。孵化の成功率は時期が遅いほど、コロニーが一定規模より大きいと低くなると考えられている。天敵となる捕食者は多様で、イヌ、キツネ、カモメ、ネズミなどの報告がある(Pierce et al. 2020)。

渡り:

地域によっては留鳥だが、短距離、長距離の移動も行い、フランスからギニアビサウまで4200kmも長距離移動した例がある。また移動時にヒマラヤの標高3500m地点で観察された記録がある(Rasmussen & Anderton 2005)。

4. 食性と採食行動

主な餌は水生昆虫類。二枚貝や巻貝類、甲殻類、クモ類、貧毛類や多毛類、オタマジャクシ、小魚やその卵も食べ、時には種子なども食べる。内陸部の繁殖地では主に昆虫食であるのに対し、潮間帯で過ごす非繁殖地では甲殻類、多毛類、軟体動物などを食べるように変化する(Pierce et al. 2020)。



写真6 ミズカマキリを捕食したセイタカシギ

5. 興味深い生態や行動, 保護上の課題

● 国内の繁殖分布と定着の課題

今のところ, 世界的には絶滅を危惧する脅威はない低危険種 (Least Concern: BirdLife International 2016) とされている。ヨーロッパ, 中東, アフリカにおいて, 一時減少した後に回復しており, 局所的に安定して生息している状況にある。中国, 台湾, 韓国でも生息域が拡大している (Pierce et al. 2020)。

国内では, 環境省発行の第4次レッドリストの第5回目の改訂版「環境省レッドリスト2020」では絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に指定されている (環境省 2020a)。秋期のモニタリング調査において旅鳥として各地に渡来する個体数は, 2000年から2017年の間に, 2.74倍に増えたと推測され増加傾向にあるが (環境省 2020b), 繁殖分布は, 一時期広がるも, 定着は東京湾, 伊勢三河湾など局地的で大きく広がってはいない (図1: 植田・植村 2021)。立ち入りが制限された埋立地, 池の中央部やフェンスに囲まれた調整池など容易に近づけない隔離された場所での巣立ち例が多く, 陸上からの天敵を避けることのできる繁殖環境が必要と考えられる。

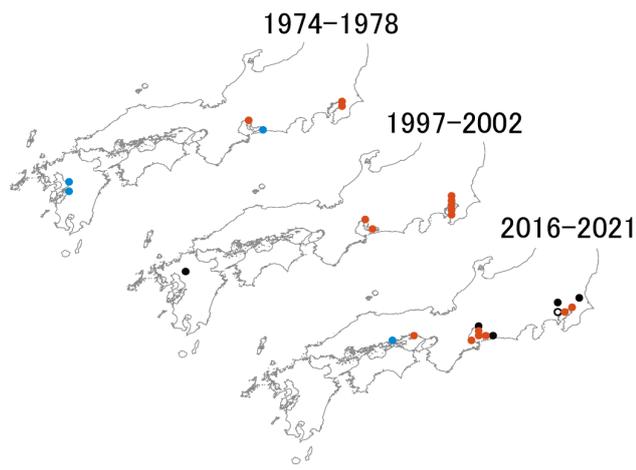


図 1 国内のセイタカシギ繁殖分布の変化。(植田・植村 2021を改変)

- : 繁殖を確認。
- : 繁殖の確認はできなかったが, 繁殖の可能性がある。
- : 生息を確認したが, 繁殖の可能性は何ともいえない。
- : 生息を確認したが, 繁殖の可能性は, おそらくない(2010年代のみ)。

● オーストラリアセイタカシギとの識別

オーストラリアセイタカシギは, 国内では稀に報告されているが, セイタカシギに頭・頸部の模様が類似した個体がいいて混同もされている。オーストラリアセイタカシギは, セイタカシギと比較するとやや小さく足が短い。嘴峰長はセイタカシギと変わらないためセイタカシギよりも嘴が長い印象を受ける。成鳥では雌雄共に後頭部から



Photo by 松井淳

写真7 オーストラリアセイタカシギ(成鳥)

後頸にかけて黒く短い冠羽がある(写真4)。非繁殖羽でも模様は変わらない。幼鳥はセイタカシギに似て頭頂部から顔にかけてぼんやりと黒く, 第1回繁殖羽で後頭部から後頸が黒く換羽し後頭部以外の頭部は白く換羽する。そのため基本的には頭部と後頸が同時に黒くなることがない。一般に頭部の換羽が先で頭部から後頸まで白くなった後, 後頸に黒い羽根が生えてくる個体が多い。鳴き声はセイタカシギに似るが, より柔らかく鼻にかかったような声で鳴く。

6. 引用・参考文献

BirdLife International. 2016. *Calidris himantopus*. The IUCN Red List of Threatened Species 2016: e.T22693437A93407752. <https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2016-3.RLTS.T22693437A93407752.en>. Accessed on 11 May 2022.

Hayman, P., Marchant, J. and Prater, T. 1986. Shorebirds: An Identification Guide to the Waders of the World. Christopher Helm, London.

Kitagawa, T. 1988. Ethosociological studies of the Black-winged Stilt *Himantopus himantopus himantopus*. II. Social structure in an overwintering population. Japanese Journal of Ornithology 37: 45-62.

環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 2020a. 環境省報道発表資料「環境省レッドリスト2020の公表について」 <http://www.env.go.jp/press/107905.html> 千代田区.

環境省自然環境局生物多様性センター 2020b. 重要生態系監視地域モニタリング推進事業(モニタリングサイト1000)シギ・チドリ類調査 2004-2017年度とりまとめ報告書. 富士吉田市.

三木敏史・守屋年史. 2022. 兵庫県におけるセイタカシギの初繁殖記録. Strix vol. 38, pp.99-105.

中村登流・中村雅彦. 1995. 原色日本野鳥生態図鑑 陸鳥編. 保育社. 大阪市.

Pierce, R.J. and Kirwan, G. M. 2020. Black-winged Stilt (*Himantopus himantopus*), version 1.0. In Birds of the World (Billerman, S. M., Keeney, B. K., Rodewald, P. G. and Schulenberg, T. S. Editors). Cornell Lab of Ornithology, Ithaca, NY, USA. <https://doi.org/10.2173/bow.bkwsti.01>.

Rasmussen, P. C. and Anderton, J. C. 2005. Birds of South Asia: the Ripley Guide. Lynx Edicions, Barcelona, Spain.

Reed, J.M., Gray, E.M., Lewis, D., Oring, L.W., Coleman, R., Burr, T. and Luscomb, P. 1999. Growth patterns of Hawaiian Stilt chicks. Wilson Bull. 111(4): 478-487.

植田陸之・植村慎吾. 全国鳥類繁殖分布調査報告 日本の鳥の今を描こう 2016-2021年. 鳥類繁殖分布調査会, 府中市. <https://www.bird-atlas.jp/news/bbs2016-21.pdf>.

執筆者

松井淳



ケアンズ在住。ケアンズのシギチドリのカウント調査を20年以上続けている。バードウォッチングツアーのガイドとしてオーストラリアやパプアニューギニアなどを案内している。

守屋年史

東京都在住。バードリサーチに所属して, モニ1000シギ・チドリ類調査や東アジア-オーストラリア地域フライウェイに関わっている。



三木敏史



兵庫県在住。14 cm のシギが1万 km も移動するのに感激し, 彼等のコンビニである干潟を守らねばと, 老体にムチ打ちモニ1000シギチ調査も現役。